

## グローバル人はつらいよ！ーアフリカ編ー

### 第2章：ガーナ

青年海外協力隊員として任期を無事終了し、様々な縁と偶然が重なり、埼玉県で在住外国人と関わる仕事に携わることができました。10年以上仕事をしていて、何かしら能力を身につけたという記憶はないのですが、ものすごくたくさん勉強をさせていただきました。そんなある日、アフリカの空気が恋しくなったのを覚えています。次第にその気持ちは大きくなり、また自分の思いを果たすべく、アフリカに帰ることにしました。

任期を終え日本に帰る時、実は2つの思いを持っていました。一つはアフリカの子どもたちに教育の機会を増やすこと、そしてもう一つはアフリカに、そして青年海外協力隊に自分を成長させてもらった恩を返すため、同じ志を持った人のサポートすることでした。その2つの思いを叶えるべく、JICAの企画調査員という職に応募し（残念ながら期間限定の職ですが）、業務に携わることになりました。

最初の赴任国はアフリカ・ガーナとなりました。多分皆さんも同じであると確信していますが、私の印象も「ガーナ＝チョコレート」でした。なんせ「地球の〇〇方」にも載っていないような国です。15年前のザンビアでの印象、日用品を手に入れるのも困難なところだろうと想像して着任しました。これは想像していたとおりでしたが、蒸し蒸しとした熱気に包まれた風に出迎えられて、首都アクラに到着しました。日本は真冬で気温差40度以上でした。数日生活すると暑いことを除けば、それほど暮らしにくくないことに気がつきました。近所に大きなショッピングモールがあり、生活に必要なものは大概のものは手に入りますし、少々値が張りますがヨーロッパからの輸入品も手に入ります。食事も大変油が多いということを除けば、現地食のバンクーやフフ、フライドライスなどの米食などバリエーションが豊富でした。ただしチョコレートはなかなか手に入れることができません。きっと現地の子どもたちが口にすることはほとんどないでしょう。

ガーナという国をちょっとだけ紹介します。昔はゴールドコーストと呼ばれていて、古くから金を産出します。近年は海底油田も発見され、今後の経済成長が期待されています。治安は悪くなく、政情も安定しており、平和であることをすべてのガーナ人が誇りに思っています。乗用車が急増したために、慢性的な交通渋滞に悩まされており、無理な追い越し、逆走、割り込みは日常茶飯事、交通マナーが非常に悪いです。



バンクー&オクロスープ with チキン  
オクラって西アフリカ原産でガーナの  
現地語に由来しているそうですよ。

国民性は大変陽気でフレンドリー。

私の業務は、青年海外協力隊など JICA が行なうボランティア事業について、受入国での対応全般を行ないます。ボランティアを受け入れてくれる活動先の発掘、ボランティアの活動内容希望の調査、査証取得などボランティアが着任するための事務手続き、ボランティアの活動中のサポート・事務手続き、悩み相談、帰国の手続きなど、多種多様にわたっています。業務のほとんどがデスクワークです。日本の本部とメールでやり取りをし、ボランティアとメールや電話でやり取りをし、業務のほとんどが日本語です。驚くべきことに、ここでは携帯もインターネットもごく普通のツールです。ガーナ人は複数携帯電話を所有し、電話会社で使い分けているのが普通です。電波状況が悪く、日によってつながりやすい携帯が違うということも原因していますが。私が持っていなかったスマホを事務所のガーナ人スタッフが持っていた時はとても驚きました。IT の進化はものすごいスピードですね。15年前は固定電話すら高嶺の花だったのに…。

開発途上国で仕事をするということは、楽しいことばかりではなく、多くの困難が待ち受けています。すでに書きましたが、日本人とのやり取りはメールで済みますが、ガーナでは直接会って話すことが重要。しかし…。電話で面会予約を取るも、予約時間に現場にいない。遅れてくるのはまだましな方で、忘れている、別の用事で遠くに出かけているなどもよくあることです。その場その場でリスケジュールすることが大事です。書類を作るのがとにかく遅い。それなのに書類を見なければならぬ人はたくさんいる。机の上で随分と寝かせた挙句、前提を覆すような質問をする。そして仕事が進まないのは、お金がないから、機材がないからなど、他のせいにする。今思いかえしても腹が立つことばかり…。



暑い日は木陰で打合せもします。

しかし、わかりました。アフリカで仕事をうまくやる方法。それは「ここは日本と違う」ということに気付くことです。当たり前のことですが、大変難しいことだと思えます。私たちは、海外にいても知らず知らずのうちに、日本と比べていると思えます。比べるから日本と同じようにできず、いらいらしてしまうのではないのでしょうか。日本と同じようにできるのであれば、私たちのような途上国で働く人はいらぬわけです。それに気づくことで、アフリカでの仕事が格段に楽しくなりました。



ボランティアはいつも子どもたちの人気者です。

くまでガーナでの話。

人と待ち合わせをし、待っている間その辺の人と話をし、目的の人が来れば、あいさつの握手をし、世間話をして目的の用事をすませ、別れの握手をしてお互いの健康を祈る。アフリカではゆったりと時間が流れる。その中で仕事することに心地よさを感じます。ここではやはり日本とは時間の流れが違うと思いました。いろいろなことにいらいらしても、しょうがないのです。

ここまで書いておいて、アフリカと一括りにしてはいけないと思いました。54か国もあるのですから。これはあ